

研究会の発足から職制50周年まで

静岡県における養護教諭のあゆみ

－組織と研究活動の概要－

静岡県教育史をひもとくと、大正13年1月静岡市では学校看護婦を各校に配置し、運動会・遠足・郊外授業等の際の養護活動にあたらせる計画を立てたが、実現したのは大正15年西豊田小学校が県内最初であった。昭和4年2月「学棒看護婦ノ設置並執務規定」の県訓令があり、同年5月駿東郡学校衛生会では女教員に看護婦講習会を開き知識の普及を図った。同年10月文部省の設置奨励の訓令が出されたが配置の義務付け、国庫補助の裏付けもなく、昭和6年には9.6%28名(当時小学校のみ)であった。しかし、不況の反映は教員にもおよび、昭和7年3月「沼津市医師会、学校看護婦の廃止の措置に対し、手当半額を返上して存置するよう市当局に要求」の報道もあった。結核、寄生虫、トラコーマ等々に関する措置が取られる中、昭和16年3月国民学校令公布後「養護訓導養護婦修練講習会開催」と学校看護婦から養護教諭前身期にはいったことがわかる。

(1)研究会の発足

昭和28年亡き松永とし子先生が関東甲信越静学校保健大会に出席し「静岡県だけが養護教員部会がない。」と県に話され、県教育委員会の御尽力も得て、昭和29年12月会員約70名の出席のもと県立沼津西高等学校の長沢しげ先生を会長に「静岡県養護教員部会」が発足した。

昭和32年、それぞれ独自の保健管理指導体制を進めることをねらいとして、小中学校部会と高等学校部会に分離した。また長年の希望であった養護教諭の指導主事設置も昭和62年実現した。

(2)小中学校における組織と研究活動

静岡県学校保健会内の「静岡県小中学校養護教員部会」として、昭和32年に発足し、現在第9代会長が760名の会員とともに活動している。

昭和38年、文部省の荷見先生の指導を受け「養護教員の手引き」を発刊、おりしも県立臨時教員養成所を設置しての養護教員増員の時代であり、執務の手引きとして、県教育委員会からも高い評価を得た。昭和43年「続 養

護教員の手引き」を発刊，職務の定着化とともに教科書的存在として会員におおいに活用された。

昭和 57 年ごろになると，心身を病む児童生徒が増加し，カウンセラー的仕事も増し，「保健室における生徒指導 先生あのね」と題して事例集を発刊し，生徒指導における養護教員の存在がクローズアップされた。さらにそれから 4 年間をかけて全会員の執務事例を集大成させ，「養護教員執務事例集」を発刊，養護教諭未配置校においても指針として活用された。

20 地区に分かれての研修会はもとより全体での実践発表・講演会の開催，また，3 年間の参加者ローテーションで行う実技研修(心理テスト・操体法・テーピング・パソコン・指導資料づくり等)を基盤として活動している。これらを研究会誌「たちばな」に毎年まとめあげ，先輩諸姉が築いてくださった歴史と伝統を昭和 62 年には 30 号記念誌としてふりかえり将来を見通した中で現在の養護教員部会のあり方を模索しつつ，よりよい会にと努力を重ねている。

〔平成2年度会長 川口保代〕

「養護教諭制度50周年記念誌」養護教諭制度50周年記念誌編集委員会 編集 ぎ
ようせい発行 より